

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者:90代 性別:女性 介護度:要介護5

病名:下血、廃用症候群

利用サービス:入所

経過:令和2年4月上旬、消化管出血の疑いで入院し、上行結腸癌の疑い。入院に伴う廃用で歩行困難となる。リハビリテーション継続の目的にて当老健入所。

内 容

昨年の夏頃から体調を崩し、食事が摂れない日が続き、当施設で看取り対応となりました。

チームで看取りケアについて日々話し合い、担当の職員がご本人らしく最期の時間を過ごすには、何かできることはないか考えケアをしていました。

ご本人との何気ない会話の中で、ご主人と北海道旅行に行った思い出話を伺い、そこで食べた札幌の味噌ラーメンが忘れられないとのことでした。

最期に食べたい物を食べてもらえるよう、ご家族から味噌味のカップラーメンを差し入れていただき、ご本人の体調の良い日を選び、提供した分はすべて食べることができました。

さらにラーメンを食べたことによって、『生きていてよかった』との声を聞き、ご主人との思い出話を笑顔でする姿は、とても幸せな時間となりました。

2月の誕生日の時に「牛丼が食べたい」と聞き、みんなの食べさせたいという思いから、牛丼を用意することができ、誕生日を老健職員みなでお祝いすることができました。

ご本人・ご家族に寄り添った看取りと最期まで口から食事を摂取できるよう今後も工夫して取り組んでいきたいと思っております。

ご本人に寄り添うケアをすることができ、ご家族からも感謝され、その人らしい生活を送る素晴らしさを感じた事例。